

# 知られざる戦国山城の実像に迫る

静岡<sup>しずまじょう</sup>城跡(大田市)、調査年：2016(平成28)年

阿部賢治

静岡城跡は日本海を見下ろす静岡川河口の丘陵に立地しますが、分布調査で発見されるまでその存在は知られていませんでした。静岡城跡は戦国時代前半期（15世紀後葉）に築かれたと考えられますが、城の構造は比較的単純であり、大規模化・複雑化する戦国時代後半期の山城の特徴はみられません。城の主郭<sup>しゅかく</sup>には土塁<sup>どるい</sup>に守られた大型建物が立ち並び、櫓<sup>やぐら</sup>や倉庫が伴います。

建物跡周辺からは碗や皿といった食器類が出土し、中でも播鉢<sup>すりばち</sup>・石臼<sup>おろしざら</sup>・卸皿<sup>おろしざら</sup>が多く、龍城<sup>りゅうじょう</sup>に備えて保存食や薬などを作っていたのかもしれませんが。また当時的高级品である中国製の青磁<sup>せいじ</sup>大皿<sup>てんちく</sup>や天目<sup>てんもく</sup>など茶の湯に関わる品も見つかっているのも特徴的です。このことから、まるで平地の領主館を山上にあげたように感じられます。

最終的に、静岡城跡は出火が原因で廃城となったようです。まさに、1533(天文6)年に



遺跡の遠景

出雲国の大名尼子経久が侵攻し、石見銀山をめぐる攻防が激化する時期と重なります。果たして、この山城の城主は一体誰だったのでしょうか？

(島根県埋蔵文化財調査センター調査員)



静間城跡の復元図